

## 労働図書館新着情報

## 今月の図書紹介

<p>①広田照幸著『教育は何をなすべきか』岩波書店(vi+359頁,四六判) 著者は、「第I部 能力・職業・市民」では、雇用の空洞化や民主主義の機能不全が目立つ現代日本において、公教育の改革方向を、①教育のなかの能力観の問題②職業を入手するための教育③市民を形成する公教育の役割、の3つの面から取り上げて検討。公教育改革が大きく転換したのは、1980年代半ばの臨時教育審議会がきっかけであり、それまでは機会の拡充などの「平等化」に重点が置かれていたが、臨教審以降は「差異化」が基調になっていったという。「社会が大きく変容しているこの時代に、教育は何をなすべきか」を追究してきた論文集である。教育史の研究者として、「第II部 歴史と現在との往還」には、大正期、戦前、戦後、ポスト震災についての論文を収録。</p>	<p>③大内伸哉著『労働時間制度改革』中央経済社(iv+ix+226頁,四六判) 本書の目的は、労働基準法の基本的知識を解説することのほか、法律上の問題を考えるための情報提供、外国制度の紹介、改革案の提示、と盛り沢山。著者によれば、36協定と割増賃金を軸とする日本の労働時間制度は失敗に終わったという。それを認めるところから改革論議は始めるべきだと強調。なぜ労働時間を規制する必要があるのか、規制するには適切な手法は何か。残業代の支払いを法律で義務づける仕組みにフィットしない労働者が増えている現在、労働時間規制を再構築するためには、ホワイトカラー・エグゼンプションの導入は必然だと主張。日本経済の競争力を維持し、労働者にも企業にも望ましい雇用社会を生み出すために必要な改革の一環と位置づける。</p>
<p>②今野晴貴著『ブラック企業2』文藝春秋(283頁,新書判) ベストセラーとなった前著の続編。ブラック企業の労務管理には、①大量採用②選別③使いつぶし、の3段階があると分析。被害にあう社員は「企業の誘い文句に意義を感じた」「労働条件がわからないまま入社した」などが原因とされる。本書では、ブラック企業が社員を使いつぶす事例を一部企業名もあげて紹介。「無限の要求」を突きつけられ、「激務で泡を吹いて倒れた社員」や「死ぬまで辞められない社員」もいたと指摘。後半では、なぜブラック企業を取り締まれないかを取り上げ、とくに労使交渉が企業別交渉一本である点が企業の利害に社員を一体化させていると強調する。労働市場の情報センターの設立案など、現場の事実に基づくブラック企業への対応策も提言。</p>	<p>④岸本裕紀子著『定年女子』集英社(207頁,四六判) 安倍政権は、指導的役割に就く女性の割合を今後増やしていく方針だが、著者は、女性の管理職が増えるにつれて、彼女たちの定年後の立場や処遇がどうなるかはまだわからないと考察。社会全体としては、成果主義に基づく組織の若返りという潮流がある一方、高齢者の定年は65歳という流れもあり、年金の支給開始年齢が延長されれば、もっと先まで働く必要がある。このため、自分が満足する形で長く働き続けたいなら、40代くらいから自分の将来の働き方を準備しなければならぬと主張。数十人の女性への取材からの発見は、定年後も何らかの形態で働き続ける女性の多さである。この結果、60代の仕事事情と仕事をしない生活の2部構成で定年女子をカバーしている。</p>

(日本十進分類[NDC]順に掲載)

## 主な受け入れ図書

(2015年5—6月労働図書館受け入れ)

⑤康本アレックス著『ビジネスに必要なたった1つのこと』幻冬舎メディアコンサルティング(189頁,四六判)	⑩水野操著『あと20年でなくなる50の仕事』青春出版社(221頁,新書判)
⑥藤沢烈著『社会のために働く』講談社(212頁,四六判)	⑪若嶋護男他著『セクハラ・パワハラ読本』日本生産性本部生産性労働情報センター(189頁, A5判)
⑦須田敏子編『「日本型」戦略の変化』東洋経済新報社(xviii+277頁, A5判)	⑫安達巧編著『パワハラ裁判の教訓』ふくろう出版(vi+565頁, A5判)
⑧山口理栄他著『子育て社員を活かすコミュニケーション』労働調査会(186頁,四六判)	⑬溝上憲文著『2016年残業代がゼロになる』光文社(285頁,四六判)
⑨倉重公太郎他編『最先端の議論に基づく人事労務担当者のための書式・規定例』日本法令(456頁, A5判)	⑭小林敦子著『ジェンダー・ハラスメントに関する心理学的研究』風間書房(vi+188頁, A5判)
⑩加茂善仁著『最新判例から学ぶメンタルヘルス問題とその対応策Q & A』労働開発研究会(xiv+253頁, A5判)	⑮大和田敢太著『フランスにおける労働組合の代表権能の動揺と再生』滋賀大学経済学部(xiii+253頁, A5判)
⑪小口好昭編著『会社と社会』中央大学出版部(xv+413頁, A5判)	⑯中沢彰吾著『中高年ブラック派遣』講談社(248頁,新書判)
⑫鷲谷徹編著『変化の中の国民生活と社会政策の課題』中央大学出版部(xii+331頁, A5判)	⑰小川慎一他著『産業・労働社会学』有斐閣(xv+339頁,四六判)
⑬野川忍他編著『変貌する雇用・就労モデルと労働法の課題』商事法務(xxiv+483頁, A5判)	⑱内藤和美他編著『男女共同参画政策』晃洋書房(vi+248頁, A5判)
⑭佐藤一磨著『日本における労働移動に関する実証分析』三菱経済研究所(121頁, A5判)	⑲若上真珠編『国際比較・若者のキャリア』新曜社(vii+252頁, A5判)
⑮西成田豊著『近代日本の労務供給論』ミネルヴァ書房(v+367+13頁, A5判)	⑳原伸子他編『現代社会と子どもの貧困』大月書店(316+v頁, A5判)
⑯小林徹著『労働市場のミスマッチ問題に対する経済政策の検討』三菱経済研究所(111頁, A5判)	㉑川上憲人他編『社会と健康』東京大学出版(ix+326頁, A5判)
⑰二見武志著『障がい者雇用の教科書』太陽出版(198頁, A5判)	㉒岩瀬達哉著『パナソニック人事抗争史』講談社(231頁,四六判)

## 労働図書館(資料センター)

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書115,000冊、洋書30,000冊、和洋の製本雑誌25,000冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。このほかにも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(285種)、洋雑誌(120種)、紀要(510種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特にILO(国際労働機関)総会の議事録やOECD(経済協力開発機構)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所在地: 〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23

開館時間: 9:30 ~ 17:00

休館日: 土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始(12月28日~1月4日)、その他

電話番号: 03(5991)5032 / FAX: 03(5991)5659

労働図書館 HP: <http://www.jil.go.jp/lib/index.htm>

利用資格: どなたでもご自由にご利用できます

貸出: 和書・洋書とも2週間、5冊までです

※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください

レファレンス・サービス: 図書資料の所在調査などのサービスを行っています

